

1 長期投資における市場環境の変動はつきものです

長期投資において市場環境の変動(ボラティリティ)は避けて通れません。投資家が経済や政治または企業の要因によって投資結果に影響を受けることは必然です。しかし、市場環境が変動することを十分に理解していれば、理性的な判断が可能になります。

3 積立投資の恩恵を受ける

定額を定期的買い付ける投資方法(ドルコスト平均法)は一定額で買付けるので、価格が安い時には多く、価格が高い時には少なく買付けることになり、結果として平均買付価格を下げる効果が見込まれます。

5 市場の調整局面は魅力的な投資機会になる場合がある

株式市場において市場調整局面は珍しいものではありません。またバリュエーションが低下するため、しばしば妙味のある投資機会となる場合があります。

2 投資対象の分散によりリターンの安定化を図る

投資成果は、リスクや市場環境の変動によって変わってきます。資産クラスやセクター、投資対象国等で、ポートフォリオの分散を行うことにより、市場変動の影響を受けるリスクを減らすことが期待できます。

4 長期投資の恩恵を受ける

株式は現金や国債に比べると高いリスク(リターンの振れ幅)を伴います。しかし、データによれば、そのような相対的に高いリスクは長期投資を行うことで均され、相対的に高いリターンの恩恵を受けることが期待できます。

